

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和2年度第1回）議事概要

日 時：令和2年5月29日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室 ※Teams 使用

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事、島田中央病院長、大津東病院長

I. 審議事項

1. がん領域でのアジア臨床研究戦略について

資料に沿って報告された。

2. 令和2年度の計画・投資の年間スケジュール等について

資料に沿って報告された。

3. CAP（米国病理医協会）設定の取得について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・現在グローバルな試験やフェーズ1において、CAP 認定が無いと試験を行えないといった国際的な基準はあるのか。
 - 特に必須というわけではなく、あるとより好ましいというレベルである。日本の場合、多くはISOの取得をしていると思うので、それでも問題ないと思う。
- ・今後 CAP 認定を取得する施設が世界的にも増え、新しい基準になる可能性もあるという認識でいいのか。
 - アジアでは増えてきており、アジアのフェーズ1などをやっている施設で既に取得しているのではないか。日本は少し遅れている状況である。

4. 医学物理士レジデントの処遇について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・人材を集める面と、現在の人材を適正に処遇して定着を図る面があり、両面から考えてかなりの大幅値上げではあるが、常勤化を図ることが適切であるという判断なのか。
 - その通りである。

II. 報告事項

1. 企業（楽天・キャノン）とのMOU・連携協定について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・イルミノックス自体は商標登録されているので、イルミノックスのトレードマークの権利と技術のシーズは楽天メディカルが持っており、こちらが連携して助けるようなスキームだろうと認識している。しかし、もし逆に NCC が元々のシーズを持っていたのであれば、知財が出ていってしまうのではないか。出口の知財、キャッシュがどうなるのか、現時点で何か考えがあれば教えていただきたい。

-イルミノックスが所有する権利や物品といったものを活用させてもらい、それを試験などに適用すると考えており、東病院の持っているものが楽天メディカルに移るような形にはなっていない。基本的に物品や資金は、イルミノックスが共用するという規程になっており、それを受けてアドバイザーとしての活動が規程されている。

2. 広報ツール（ホームページ・パンフ等）見直しの検討会設置について

資料に沿って報告された。

3. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

・臨床では、がんの治療中は弱いと言われている部分があるため、様々な医学的研究を含めてマクロ・ミクロの両面から迫り、何がコロナ流行下での適正ながん治療なのか、アメリカやヨーロッパに引きずられずに議論し日本の在り方を検討していただきたい。
-多くの日本人はそれほど重症化せずに治癒することが多く、これは欧米と明らかに異なる点であるため、その理由を6NCの共通基盤で解析していこうとしている。NCの国際医療研究センターと連携し実際に患者の検体を用いながら、重症化して亡くなった人と重症化せずに改善した人を見ていく。実際、東アジアや日本人に多いHLAの亜型に、新型コロナが作るタンパクは物凄くよく付く。このような抗原を認識する抗体が、改善した方の血液中にどのくらいあるのかなどを調べていくのは日本や東アジアでしかない研究なので、NCで連携して進めていきたいと思う。

4. 広報実績

資料に沿って報告された。

5. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

6. 4月分医業件数等

資料に沿って報告された。